

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 14 年 7 月 調査結果 —

(平成 14 年 7 月 31 日)

○調査期間：平成 14 年 7 月 18 日～24 日

○調査対象：全国の 401 商工会議所が 2607 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 386 製造業 638 卸売業 232
小売業 748 サービス業 603

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (DI 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ DI 値について

DI 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL:03-3283-7844、7843
E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成14年7月調査結果のポイント】

業況DIは小幅悪化 水準は依然低く楽観許さず

- 7月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲48.1）よりマイナス幅が0.8ポイント拡大して▲48.9となった。DI値の水準は、4月以降一進一退を繰り返しており、前月、わずかながらも縮小したマイナス幅は、再び小幅拡大となった。

業種別の業況DIを見ると、小売業以外の4業種でマイナス幅が縮小し、特に建設業で平成13年5月以来のマイナス50台、卸売業で同じく平成13年5月以来のマイナス40台となった。一方、小売業は、▲49.1と前月水準よりもマイナス幅が8ポイント拡大し、このため、全産業でも、わずかながらマイナス幅拡大となった。小売業を除く4業種でマイナス幅の縮小が見られたものの、DI値の水準は依然として低く、また、先行きの不透明感や消費意欲の低迷を訴える声^{まだまだ}が依然として多数寄せられており、景気の先行きに楽観は許されない。

〔建設業〕では、「公共・民間工事とも少なく、好転する兆しは見られない」（一般工事、建築工事、電気工事）、「計画の繰延べが見られ、厳しい状況」（一般工事）と、引き続き、公共事業の削減、民間設備投資の低迷による受注減を憂う声が多く寄せられている。一部に、「災害復旧用舗装工事や公共事業の前倒し発注で一息ついている」（一般工事）との前向きな指摘も見られるものの、公共事業予算が減少している中で、「今後の仕事量減少を危惧」（一般工事、建築工事、土木工事）するなど、先行きに対する懸念が広がっている。

〔製造業〕では、「公共工事用の受注で動きがあり」（家具製造）、「新型車好調により生産台数増加で売上増、人員も不足気味」（一般機械）、「輸出好調で生産は底固い」（自動車・附属品）と、業況の好転を指摘するコメントが見られるものの、「単価が安く利益につながらない」（家具製造）、「米国景気の先行きが読めない」（ブリキ缶等製造）、「需要が不透明で新規受注も増加せず」（電子部品製造）と、先行きに対する不安感を訴える声が多く寄せられている。こうした先行きの不透明感から設備投資を抑える動きも見られ、「設備投資に各社とも逡巡」（金属製品製造）、「設備投資見送りにより工作機械が低迷」（金属加工機械）といった声が寄せられている。

〔卸売業〕では、引き続き「個人消費は盛り上がりを欠き、消費マインドは冷え込んだまま」（衣服・日用品卸売、繊維品卸売、食料・飲料卸売）、「中元シーズンも売れ行き悪い」（食料・飲料卸売）と、厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。また、「天候不順で売上不振」（食料・飲料卸売、農畜産水産物卸売、各種消費卸売）、「台風の影響で今後の商品相場が心配」（食料・飲料卸売）など、天候不順による悪影響を指摘する声も聞かれる。

〔小売業〕では、「中元商戦を早めたことにより売上増加」（百貨店）との声も聞かれるものの、「民間企業のリストラ、公務員給与の見直し、賞与削減等による影響」（百貨店、商店街）や、「法人の中元ギフト削減」など、消費動向をめぐる厳しい状況を指摘する声依然在多い。また、今月は、「数次の台風直撃と前年に比べて遅くなった梅雨明けによる影響」（百貨店、商店街、各種商品小売）を指摘する声非常に多く寄せられており、天候不順が業況DIのマイナス幅拡大に大きく影響したと言えよう。

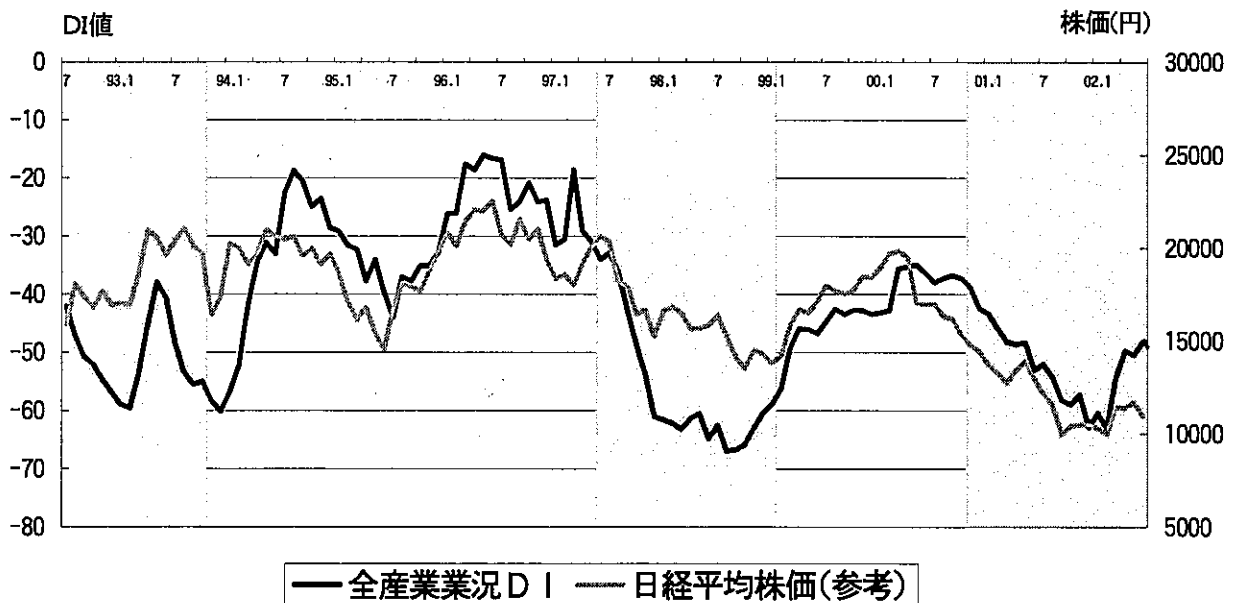
〔サービス業〕では、「ワールドカップ終了により客足回復」（旅館、料亭）、「暑い時期に入り期待したい」（そば・うどん店、理容）と、一部に今後への期待感を伺わせるコメントが見られるものの、「長引く不況により低価格ものへのシフト」（すし店）、「他企業の進出による過当競争」（その他事業サービス、旅館、自動車整備）により、売上や採算の悪化を指摘する声が多く寄せられた。また、天候不順により、「材料の仕入れ価格が高騰」（食堂、レストラン）、「予約客のキャンセル相次ぐ」（旅館）との声も聞かれた。

売上面では、前月水準と比較して、建設で平成13年1月以来のマイナス40台に縮小したものの、製造、小売、サービスでマイナス幅は拡大、卸売でもほぼ横ばいとなり、全産業合計の売上DIは▲44.0と、2月以来、5ヶ月振りにマイナス幅が拡大した。

採算面でも、建設でマイナス幅^{かい}縮小したものの、残りの4業種では、マイナス幅が拡大し、全産業合計の採算DIは▲45.2と、売上DI同様、2月以来5ヶ月振りにマイナス幅が拡大した。小売とサービスは、4月以降、3ヶ月連続でマイナス幅が小幅ながら拡大している。

- 向こう3ヵ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲38.2と、昨年同時期の先行き見通し(▲46.9)と比べて上向いている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の削減や消費不振による先行き不安感、仕入れコストの上昇、天候不順の影響に関するコメントが目立っている。

《参考》過去10年間の全産業・業況DI値の推移



【業況についての判断】

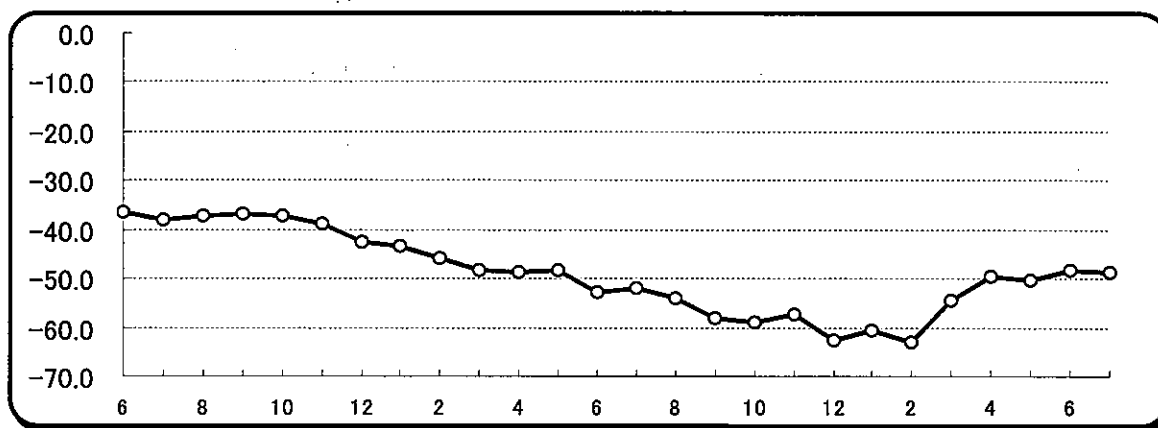
- 7月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲48.1）よりマイナス幅が0.8ポイント拡大して▲48.9となった。DI値の水準は、4月以降一進一退を繰り返しており、前月、わずかながらも縮小したマイナス幅は、再び小幅拡大となった。
- 向こう3ヵ月（8月～10月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲38.2と、昨年同時期の先行き見通し（▲46.9）と比べて上向いている。

業況DI（前年同月比）の推移

	14年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲63.1	▲54.4	▲49.7	▲50.4	▲48.1	▲48.9	▲38.2 (▲46.9)
建設	▲69.0	▲64.7	▲67.7	▲66.7	▲61.6	▲57.1	▲50.5 (▲55.3)
製造	▲65.1	▲59.0	▲53.6	▲53.8	▲48.5	▲47.6	▲34.7 (▲53.5)
卸売	▲70.9	▲62.8	▲58.4	▲58.1	▲52.1	▲48.7	▲36.4 (▲46.0)
小売	▲59.6	▲49.4	▲41.9	▲42.7	▲41.1	▲49.1	▲36.6 (▲39.4)
サービス	▲58.2	▲44.6	▲39.2	▲41.8	▲45.8	▲44.5	▲36.6 (▲43.1)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヵ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年7月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



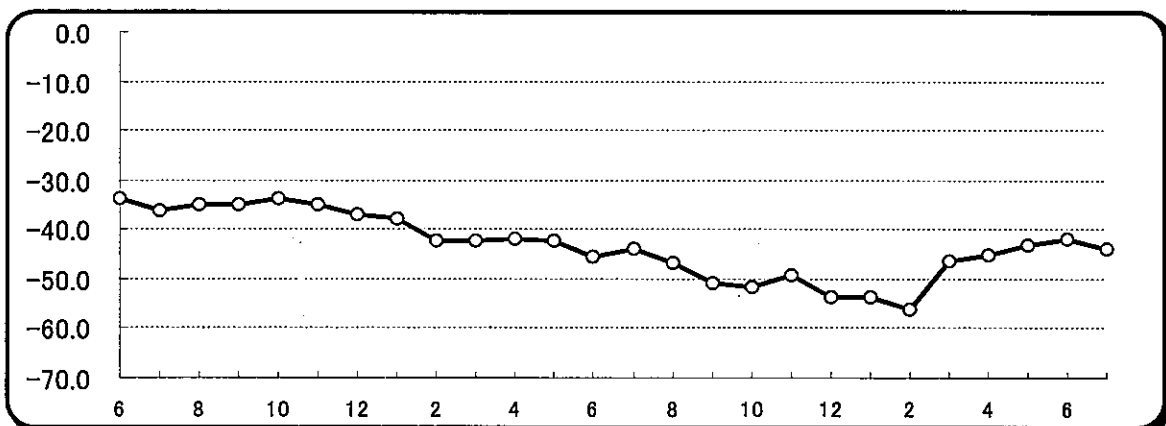
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、前月水準と比較して、建設で平成13年1月以来のマイナス40台に縮小したものの、製造、小売、サービスでマイナス幅は拡大、卸売でもほぼ横ばいとなり、全産業合計の売上DIは▲44.0と、2月以来、5ヶ月振りにマイナス幅が拡大した。
- 向こう3ヵ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI(今月比ベース)が▲31.7と、昨年同時期の先行き見通し(▲37.9)に比べて明るい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	14年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲56.0	▲46.5	▲45.2	▲43.2	▲42.0	▲44.0	▲31.7 (▲37.9)
建設	▲62.8	▲56.0	▲60.6	▲60.7	▲56.5	▲48.7	▲41.8 (▲43.3)
製造	▲60.6	▲52.3	▲48.6	▲47.7	▲40.0	▲41.6	▲30.1 (▲41.9)
卸売	▲62.3	▲58.3	▲56.5	▲45.6	▲45.6	▲45.5	▲26.0 (▲38.5)
小売	▲50.8	▲39.4	▲40.4	▲37.1	▲38.7	▲45.3	▲30.5 (▲33.5)
サービス	▲49.9	▲37.0	▲32.4	▲32.5	▲37.0	▲41.3	▲30.3 (▲34.8)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



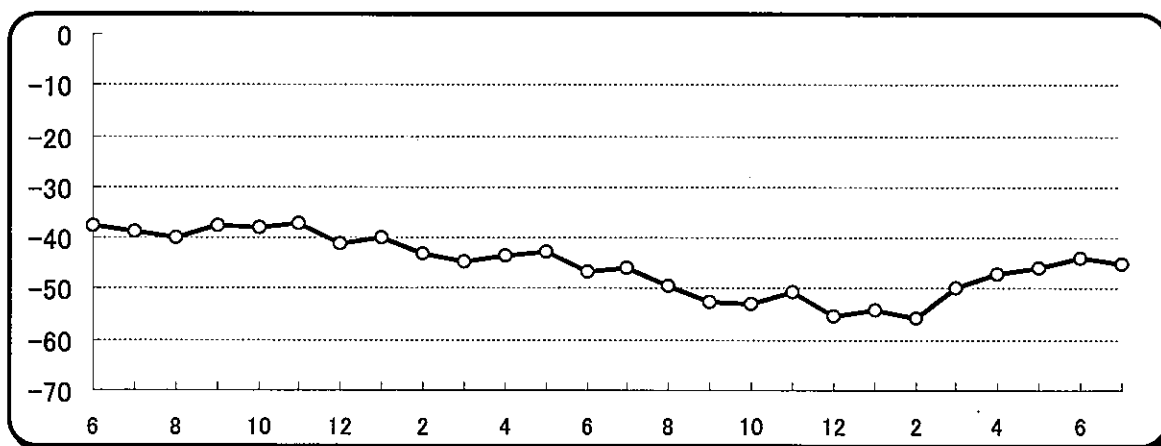
【採算の状況についての判断】

- 採算面でも、建設でマイナス幅縮小したものの、残りの4業種では、マイナス幅が拡大し、全産業合計の採算D Iは▲45.2と、売上D I同様、2月以来5ヶ月振りにマイナス幅が拡大した。小売とサービスは、4月以降、3カ月連続でマイナス幅が小幅ながら拡大している。
- 向こう3ヵ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲34.8で、昨年同時期の先行き見通し(▲40.3)と比べて、明るい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	14年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲ 55.9	▲ 49.9	▲ 47.0	▲ 45.7	▲ 43.9	▲ 45.2	▲ 34.8 (▲ 40.3)
建設	▲ 65.0	▲ 64.7	▲ 61.6	▲ 62.1	▲ 60.5	▲ 56.6	▲ 45.2 (▲ 52.0)
製造	▲ 61.3	▲ 54.2	▲ 55.8	▲ 51.6	▲ 44.8	▲ 46.1	▲ 33.8 (▲ 45.0)
卸売	▲ 61.6	▲ 53.2	▲ 54.0	▲ 47.5	▲ 42.0	▲ 43.1	▲ 27.9 (▲ 40.4)
小売	▲ 48.5	▲ 44.1	▲ 36.0	▲ 36.3	▲ 37.0	▲ 42.0	▲ 34.1 (▲ 32.7)
サービス	▲ 50.6	▲ 40.2	▲ 38.4	▲ 38.9	▲ 41.2	▲ 41.3	▲ 32.3 (▲ 36.4)

≪採算D I (全産業・前年同月比) の推移≫



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	14年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	▲ 42.7	▲ 41.1	▲ 37.9	▲ 36.3	▲ 34.5	▲ 33.8	▲ 29.8 (▲ 29.9)
建設	▲ 49.3	▲ 49.3	▲ 50.9	▲ 46.7	▲ 44.8	▲ 44.9	▲ 39.9 (▲ 37.1)
製造	▲ 49.3	▲ 49.0	▲ 48.2	▲ 43.3	▲ 41.6	▲ 41.4	▲ 34.2 (▲ 36.2)
卸売	▲ 40.6	▲ 37.0	▲ 37.1	▲ 33.3	▲ 30.7	▲ 29.6	▲ 26.1 (▲ 23.2)
小売	▲ 37.4	▲ 32.4	▲ 25.1	▲ 25.3	▲ 24.4	▲ 24.9	▲ 24.9 (▲ 24.8)
サービス	▲ 36.0	▲ 36.6	▲ 30.0	▲ 33.4	▲ 30.7	▲ 26.8	▲ 25.0 (▲ 26.4)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】製造、卸売、サービスで悪化超感が若干弱まり、全産業でも5カ月連続で悪化超感弱まる。

【先行き見通しD I】製造、サービスで、昨年同時期に比べ悪化超感弱まる。他の3業種は、悪化超感が若干強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	14年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	2.1	3.2	0.9	1.0	0.7	▲ 0.1	▲ 2.5 (▲ 0.6)
建設	2.6	4.7	▲ 1.8	1.1	1.8	0.0	▲ 0.4 (▲ 1.5)
製造	▲ 5.0	▲ 2.2	▲ 5.5	▲ 5.9	▲ 4.9	▲ 7.3	▲ 9.7 (▲ 3.8)
卸売	11.3	13.5	9.4	8.2	4.8	1.9	2.6 (4.3)
小売	8.7	8.0	8.3	8.4	8.3	8.4	2.5 (4.6)
サービス	▲ 1.8	▲ 2.1	▲ 3.0	▲ 3.5	▲ 5.2	▲ 3.0	▲ 3.8 (▲ 5.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設、製造、卸売で下落超感が弱まり、全産業では平成13年2月以来の上昇超過となった。

【先行き見通しD I】建設、サービスを除く3業種で、昨年同時期に比べ下落超感弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	14年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲ 19.4	▲ 18.6	▲ 17.6	▲ 17.2	▲ 15.6	▲ 15.0	▲ 14.4 (▲ 14.6)
建設	▲ 36.5	▲ 35.8	▲ 35.3	▲ 36.8	▲ 36.7	▲ 32.0	▲ 26.3 (▲ 26.9)
製造	▲ 27.7	▲ 26.8	▲ 26.4	▲ 23.2	▲ 21.8	▲ 22.8	▲ 21.2 (▲ 21.1)
卸売	▲ 21.9	▲ 21.8	▲ 21.1	▲ 20.6	▲ 16.0	▲ 14.9	▲ 14.6 (▲ 15.5)
小売	▲ 9.8	▲ 6.9	▲ 6.8	▲ 6.4	▲ 3.7	▲ 4.3	▲ 7.1 (▲ 7.7)
サービス	▲ 8.9	▲ 10.7	▲ 7.7	▲ 8.9	▲ 8.9	▲ 7.5	▲ 6.8 (▲ 6.8)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】建設、卸売、サービスで過剰超感が弱まる。

【先行き見通しD I】建設、卸売、小売で、昨年同時期に比べ過剰超感がわずかながら弱まる見通し。

【平成14年7月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

今月も、景気の先行き不透明感を指摘する声が多く寄せられている。建設業からは、「公共工事の前倒し発注の活発化も、その反動で今後の仕事量減少を危惧」（静岡・一般工事）、「売上があっても支払が悪く、売掛金が発生し、今後の資金繰り悪化を懸念」（川崎・一般工事）といった声が、製造業からは、「半導体業界で動きが出始めているが、新規受注は増加せず」（新井・電子部品製造）、「金利引き上げの動きあり」（八尾・印刷業）などの声が寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「同業者間の価格競争が激しく、先行きに不安」（倉吉・農畜産物水産物卸売）、「給与見直し、賞与減少に伴う消費環境の悪化」（山形・百貨店、勝山・商店街）、「客単価の下落が年々大きくなっている」（館山・旅館）などの声が寄せられている。

○ 仕入れコスト上昇

製造業を中心に、原材料価格の高騰と製品価格への転嫁困難による採算の悪化を指摘する声が散見されはじめており、「原材料の値上げ要請が増え、今後の収益悪化を懸念」（岐阜・プラスチック製造）、「メーカーの売上減少、採算悪化により値上げに向けた動き」（茨木・印刷関連工業、富士・紙製造）、「銑鉄、アルミ、ステンレス等で値上げの動きあり」（長岡・鉄素形材製造、西宮・建築用金属）等の声が寄せられている。また、天候不順に関連して、「漁獲量が減り、原材料が高騰」（銚子・水産食料品製造）、「今後の商品の入荷や相場に懸念」（石岡・農畜産水産物卸売、西脇・食料飲料卸売）との指摘も見られる。こうした動きを反映し、今月の仕入れ単価DIは、全産業合計で▲0.1と、平成13年2月以来のマイナス水準（上昇超過）となった。

○ 天候不順

今月は、数次にわたる台風の直撃や昨年と比べて遅い梅雨明けの影響に関するコメントが目立った。「台風の接近で売上減少」（相馬、銚子、静岡・百貨店、加茂、横浜・商店街、桐生・各種商品小売業）、「原料が上昇傾向」（館山・食堂、レストラン）、「台風直撃でキャンセル相次ぐ」（銚子・旅館）、「梅雨明けが遅く不調」（富士・百貨店）、「天候不順で盛夏商品の動向が今一つ」（二本松・各種商品小売、柏崎・百貨店）といった指摘が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月		景気キーワード		
14年	5月	先行き不透明感	「景気底入れ感」なし	天候の影響
	6月	先行き不透明感	企業間格差	ワールドカップ
	7月	先行き不透明感	仕入れコスト上昇	天候不順

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況DⅠは3カ月連続して改善し、マイナス50台へ。売上・採算DⅠも、^{2ヵ月連続して}いずれもマイナス幅が縮小。「公共・民間工事とも少なく、好転する兆しは見られない」(一般工事、建築工事、電気工事)、「計画の繰延べが見られ、厳しい状況」(一般工事)と、引き続き、公共事業の削減、民間設備投資の低迷による受注減を憂う声が多く寄せられている。一部に、「災害復旧用舗装工事や公共事業の前倒し発注で一息ついている」(一般工事)との前向きな指摘も見られるものの、公共事業予算が減少している中で、「今後の仕事量減少を危惧」(一般工事、建築工事、土木工事)するなど、先行きに対する懸念が広がっている。</p>
製 造	<p>業況DⅠは、前月に引き続き縮小。売上・採算DⅠ^{しかし、}もわずかながらではあるが、いずれもマイナス幅が拡大。「公共工事用の受注で動きがあり」(家具製造)、「新型車好調により生産台数増加で売上増、人員も不足気味」(一般機械)、「輸出好調で生産は底固い」(自動車・附属品)と、業況の好転を指摘するコメントが見られるものの、「単価が安く利益につながらない」(家具製造)、「米国景気の先行きが読めない」(ブリキ缶等製造)、「需要が不透明で新規受注も増加せず」(電子部品製造)と、先行きに対する不安感を訴える声が多く寄せられている。こうした先行きの不透明感から設備投資を控える動きも見られ、「設備投資に各社とも逡巡」(金属製品製造)、「設備投資見送りにより工作機械が低迷」(金属加工機械)といった声が寄せられている。</p>
卸 売	<p>業況DⅠは3月以降5カ月連続でマイナス幅が縮小。売上DⅠはわずかに縮小したが、採算DⅠはマイナス幅が拡大。引き続き「個人消費は盛り上がりを欠き、消費マインドは冷え込んだまま」(衣服・日用品卸売、繊維品卸売、食料・飲料卸売)、「中元シーズンも売れ行き悪い」(食料・飲料卸売)と、厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。また、「天候不順で売上不振」(食料・飲料卸売、農畜産水産物卸売、各種消費卸売)、「台風の影響で今後の商品相場が心配」(食料・飲料卸売)など、天候不順による悪影響を指摘する声も聞かれる。</p>
小 売	<p>業況・売上・採算DⅠともにマイナス幅が拡大。特に、業況DⅠは、前月水準から8ポイントの大幅拡大。「中元商戦を早めたことにより売上増加」(百貨店)との声も聞かれるものの、「民間企業のリストラ、公務員給与の見直し、賞与削減等による影響」(百貨店、商店街)や、「法人の中元ギフト削減」など、消費動向をめぐる厳しい状況を指摘する声が依然多い。また、今月は、「数次の台風直撃と前年に比べて遅くなった梅雨明けによる影響」(百貨店、商店街、各種商品小売)を指摘する声が非常に多く寄せられており、天候不順が業況DⅠのマイナス幅拡大に大きく影響したと言えよう。</p>
サービス	<p>先月まで2ヵ月連続でマイナス幅が拡大した業況DⅠは、わずかながら縮小。売上・採算DⅠはともにマイナス幅拡大。「ワールドカップ終了により客足回復」(旅館、料亭)、「暑い時期に入り期待したい」(そば・うどん店、理容)と、一部に今後への期待感を伺わせるコメントが見られるものの、「長引く不況により低価格ものへのシフト」(すし店)、「他企業の進出による過当競争」(その他事業サービス、旅館、自動車整備)により、売上や採算の悪化を指摘する声が多く寄せられた。また、天候不順により、「材料の仕入れ価格が高騰」(食堂、レストラン)、「予約客のキャンセル相次ぐ」(旅館)との声も聞かれた。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

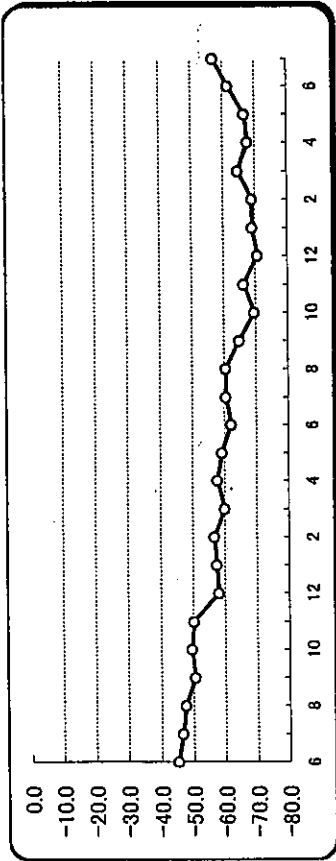
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準で推移し、特に北陸信越、関東、近畿を除く6ブロックで前月水準に比べてマイナス幅が拡大した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（8月～10月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。しかしながら、全ブロックで昨年同時期の先行き見通しと比べ、マイナス幅が縮小しており、明るい見方をしている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

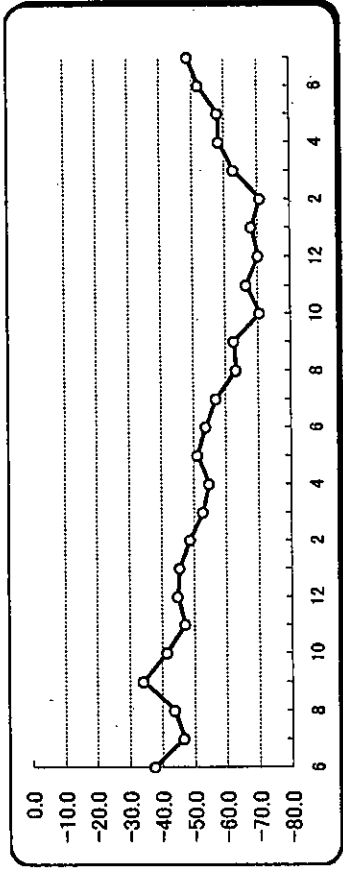
	14年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全 国	▲ 63.1	▲ 54.4	▲ 49.7	▲ 50.4	▲ 48.1	▲ 48.9	▲ 38.2 (▲ 46.9)
北海道	▲ 48.1	▲ 34.6	▲ 41.8	▲ 43.3	▲ 40.8	▲ 43.3	▲ 39.4 (▲ 40.5)
東 北	▲ 67.6	▲ 65.7	▲ 59.2	▲ 55.3	▲ 51.8	▲ 55.3	▲ 44.1 (▲ 49.7)
北陸信越	▲ 65.4	▲ 54.9	▲ 50.0	▲ 52.8	▲ 46.0	▲ 40.1	▲ 35.9 (▲ 49.4)
関 東	▲ 55.9	▲ 48.8	▲ 44.5	▲ 44.9	▲ 50.1	▲ 43.5	▲ 29.9 (▲ 43.5)
東 海	▲ 69.0	▲ 62.6	▲ 48.9	▲ 43.7	▲ 43.1	▲ 52.8	▲ 40.9 (▲ 46.0)
近 畿	▲ 71.4	▲ 66.7	▲ 54.9	▲ 61.9	▲ 53.0	▲ 52.9	▲ 44.5 (▲ 51.5)
中 国	▲ 65.3	▲ 52.7	▲ 58.1	▲ 57.0	▲ 51.4	▲ 55.2	▲ 42.1 (▲ 46.7)
四 国	▲ 70.2	▲ 61.1	▲ 53.9	▲ 57.3	▲ 52.6	▲ 58.7	▲ 45.9 (▲ 53.9)
九 州	▲ 60.5	▲ 44.2	▲ 42.7	▲ 42.6	▲ 40.0	▲ 48.9	▲ 36.0 (▲ 44.5)

業況D I (前年同月比)の推移(全国)

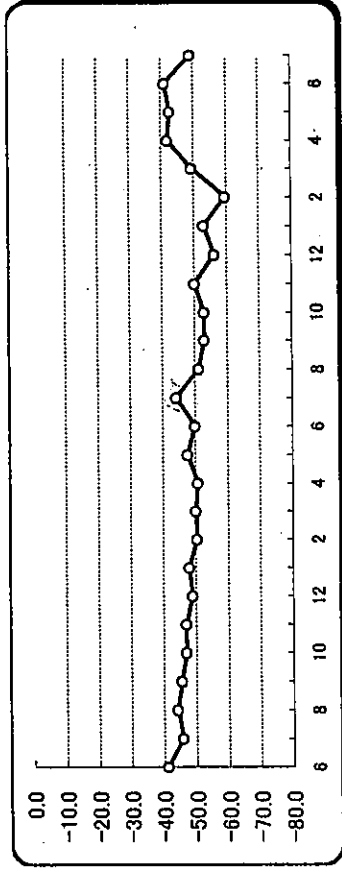
建設業



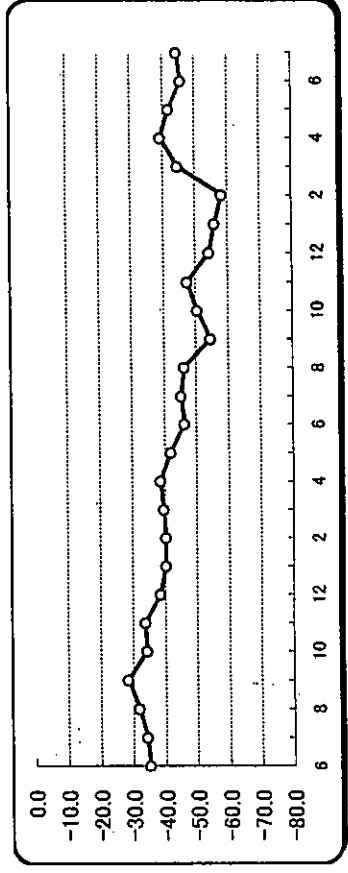
卸売業



小売業



サービス業



製造業

